



横浜市の保健行政における医師の重要性について

市の保健医療等の分野で事務職や関係職種と議論しながら、協働して制度設計を考えていきます。この場合、医学的な判断を下すのが、行政医師の役割です。保健医療の分野の施策が役所の中のみで完結することはまずありえず、医師会などの関係機関との調整を行うことも重要な職務です。

これまで私自身の行った仕事で一番印象に残っていることは、市のがん検診にマンモグラフィーを導入した担当課長の頃です。まず乳がん検診に詳しい大学教授に乳がん検診のいろはを教わるのが第一歩でした。そのために何度か、県の最北にある医学部に通ったことを懐かしく思い出します。ご教示いただいたことを周囲の事務職と議論しながら、医師会の先生と調整して、制度を組み立てていきます。この時、エクセルを駆使して自分で作図したマンモグラフィーの検診票は基本的に今でも使用されています。マンモグラフィーの検診が導入されてからは、それまでの視触診だけの検診に比べ、多くの女性の乳がんが早期に発見されるようになったと実感しています。

このように多くの人の健康を守ることができるのが、公衆衛生医師のやりがいであると同時に責任の重さだと感じています。

横浜に入職を希望する皆様へ

臨床が医学の基本であることに、疑う余地はありません。しかし、集団の健康を守ることも仕事、公を衛(まもる)ことも重要な医師の仕事です。臨床の場で、何か疑問等を感じたら、一度公衆衛生医師を経験してみませんか。疾病予防や防疫に関する仕事を経験したのち、臨床の場で経験を活かす先輩も少なくありません。

まず、横浜市保健所を見学してみませんか？ お待ちしております。

横浜市保健所長 田畑和夫